

聴きます その声 伝えます!

日頃よりご支援いただきありがとうございます。市政報告をお送りいたします。



少し前の話になりますが、5月26日、27日と世界が注目する伊勢志摩サミットが開催されました。有り難いことに、名張のお酒が飲まれ、大変、盛り上がった会議となりました。サミットの一員である日本は、これからは諸外国と肩を並べて国を運営していかなければなりません。その為には、相手を知ることが必要と考えます。

幸い、私達の住む名張市には、600名近い外国人、伊賀市には4000名強の外国籍の方が登録されています。

まずは、身近な外国を知るために、5月22日、名張市と伊賀市の中間に位置する古山の『うにの丘』で国際交流イベントをさせていただきました。韓国、ブラジル、インドネシア、キルギス、ペルー、日本の計6ヶ国が集まり、賑わったイベントとなりました。

お越しいただいた方、ご尽力いただいた関係各位の皆様にご感謝申し上げます。

これからも地域や国を超えた繋がりができることを願います。

それでは、6月議会での一般質問の内容と行政側の答弁について、お伝えいたします。



第371回定例会

命を守る救急対策について

6月10日～28日開会
本会議・一般質問より

●救急の現状と救急ワークステーションの導入について

現状

名張市の人口約8万人のうち、65歳以上の人口は2万人を超え、全体の27%を占める。消防年報資料によると、救急出動件数は年々増え続け、平成23年度からは年間3千件を超えている。そのうちの3分の2、2千件以上の搬送者が65歳以上の方である。救急車の現場滞在時間は、平成23年が平均18.8分、平成27年では平均17.5分と時間は短縮されてきている。搬送先の病院問い合わせの平均回数は、1.18回と年々回数も減ってきている。

Q. 救急車の現場滞在の最長時間と病院問い合わせ最多回数を教えて下さい。また、今後の対策があれば教えて下さい。

A. 現場滞在最長時間は2時間30分を超えたことがあった。このケースでは、赤目四十八滝の奥地からの搬送でドクターヘリを使用したため、時間を要した。病院への問い合わせの最多回数は13回。この時の現場滞在時間は、13回×約3分=約40分と予想される。現場滞在時間の短縮、問い合わせ回数の減少を進めるために、また救命士の技量向上、スムーズな患者受け入れ(医療機関関係者との顔と顔の見える関係づくり)などの利点がある救急ワークステーションの導入を進めている。

要望事項

救急ワークステーションには医師同乗の講習を実施している亀山市の取り組みもある。亀山市では、医師同乗での処置は、医師資格で行える対処方法ではなく、あくまで救命士の実施できる範囲までで行う。また、講師の対象は医師だけに限らず、看護師や栄養士、レントゲン技師、検査技師など、多方面の職種の方に協力をいただくことで、講師の負担も減らすことができる。参考にしていきたい。

●救急医療情報キットの使用状況と活用推進について

現状

平成24年度より導入した救急医療情報キットは、氏名、緊急連絡先、生年月日、血液型、掛かり付け医師や服薬内容などを記入したシートを筒に入れ、災害時でも壊れにくい冷蔵庫に保管するようになっている。そのキットのおかげで救急隊員は必要な情報を得ることができ、応急処置や搬送に役立てることが出来る。

Q. 導入したキット総数と配布した個数、在庫数を教えて下さい。また、救急搬送時のキット使用状況を教えて下さい。

A. キット総数は7500個、配布したのは3145世帯、4736人。在庫が約3500個。一人暮らしや高齢者のみの世帯、日中一人になる高齢者や心身に障害のある人(手帳の有無は問わない。)がいる世帯、その他、救急時の対応に不安がある方がいる世帯に無料配布している。(名張市社会福祉協議会が申請書を配布している。)救急時の使用件数は平成25年27件、平成26年41件、平成27年36件。キットの使用を、まちの保健室などで紹介したい。

要望事項

これから高齢化社会を迎える中で、救急医療情報キットは有効で、高齢者の見守り支援にもなる。配布の推進を強く要望する。



救急医療情報キット▶

●3輪番制の救急対応と今後の方向性について

現状

伊賀地域では、名張市立病院、上野総合市民病院、岡波総合病院の3病院が連携を図り、二次救急医療(小児科を除く)の受け入れをしている。名張市民が伊賀市の病院に入院した場合、高齢者など公共交通機関でしか移動できない家族にとっては、見舞いなどで訪れることが非常に困難になっている。

Q. 名張市民にとって救急搬送先は名張市立病院が望ましい。今後の連携3病院の方向性を教えて下さい。



A. 国の「医療介護総合確保推進法」を受け、県の「地域医療構想」が早ければ平成28年半ば頃、遅くとも平成30年3月までに決まる。内容は、2025年に向けた病床の機能分化・連携を進めるために、医療需要と病床の必要量を推計し定めるものである。その中で、病院へのアクセス時間の変化等も考慮して進めていく予定である。

医療と福祉と保健の連携について

●平成25年10月より立ち上がった在宅医療救急システムについて

現状

在宅訪問診療や在宅療養支援診療を積極的に行う医療機関が少ない中、少しでも住民や実施医療機関の支援体制となるように「24時間365日の緊急時の受け入れ体制整備」を名張市立病院と協議し進めてきた結果、在宅医療救急システムが整備された。



Q. 利用条件と登録者数を教えてください。

A. 地域医療連携システム登録医師（名張市立病院と業務連携登録をしている開業医）の往診を定期的に受けている在宅患者が利用できる。現在の登録者数は延べ204件。平成27年度現在は66件。

Q. 現在の利用条件だと、限られた方しか登録できない。これから国としても在宅医療を進めていく中で、臨時的もしくは短期的な往診を受ける方も対象にしていかなければならないのでは？

A. 今後、登録対象の検討をしていく必要があると考える。

要望事項

平成27年度医療・介護福祉ガイドブック・マップ保存版（名張市在宅医療支援センター制作）によると、内科は市内に28件あるが、在宅診療してくださるのは13件。（うち1件は要相談。）

島根県雲南市立病院では、本年4月から地域ケア科が新設された。地域の開業医の方や地域保健機関の方々の協力をいただきながら、病院からの在宅医療を行う、病院入院から在宅医療までを一貫して担当する科である。このような取り組みも、名張市立病院として考えていただきたい。

市民一丸で取り組む防災対策について

●協定を結んでいる自治体等との災害時の対応について

現状

現在、名張市が締結している災害協定等の相手方は、142社ある。そのうち、物資に関する協定先は民間7団体、県外の4市町。災害時には、こちらから要請して対応いただくことになっている。



Q. 災害時の物資の要求はどのようにするのか？

A. FAXで要請する。

要望事項

災害時は電話が繋がらない状況下であるので、FAXも繋がりにくいと思われ。事前に支援物資項目と数量を決めておいて、連絡がとれなくても相手方が対応できるようにしておいて欲しい。

●災害対策として市が備える物について

現状

アルファ化米、水、毛布、紙おむつ（大人用、こども用）、粉ミルク、生理用品、発電機、燃料等を防災倉庫で保管している。しかし、数に限りがあるので個人の備えを充実していただけるように啓発している。名張市暮らしの便利帳の防災減災の項目にも、『最低7日間の備蓄を』と記載している。



要望事項

アルファ化米等は消費期限前に炊き出し訓練等で活用しているが、市として備える物の多くは、消費期限のない半永久的なものが望ましいと考える。サバイバルシートは防寒・保温力に優れ、仮に雨で濡れることがあっても拭くとすぐに使える。また、折りたたみ式リアカーを備えている地域もあり、人命救助、物資の運搬など多目的に役立つ。仮設住宅については、ドームハウスを推進する。熊本地震が起きて2ヶ月経った時点で完成した仮設住宅は232戸にとどまり、6211人が避難所生活を送っている。

それ程、仮設住宅を作るのに時間がかかる。名張市として、組み立て式のドームハウスを備えることを検討していただきたい。

足立よしえ市政報告会開催のお知らせ



- ◆8月27日(土) 10:30～(開場10:00) 場所: 比奈知市民センター
14:00～(開場13:30) 場所: 梅が丘コミュニティー・プラザ「NAURAA(ナウラ)」
- ◆8月28日(日) 10:30～(開場10:00) 場所: つつしが丘市民センター
14:00～(開場13:30) 場所: すずらん台市民センター
19:00～(開場18:30) 場所: 美旗市民センター



皆様からのご意見、
ご要望を
お待ちしております。

足立よしえ 検索

発行: 足立よしえ後援会・足立よしえ 電話番号: 090-7898-9453(足立直通)
住所: 名張市つつしが丘北 5-83 : 0595-68-3118(FAX 兼用)
メールアドレス: zucchan-eve@docomo.ne.jp ホームページ: http://www.adachiyoshie.jp